

○拉致問題で訪米、議員外交を

連休を使ってアメリカに行きました。ワシントンで毎年開かれる北朝鮮人権週間に招かれ、参加をしました。脱北者の救済、北朝鮮の収容所内の拷問、韓国や日本を始め 12 カ国におよぶ拉致問題や離散家族など、金正日政権の非道は言うに及ばず、中国国内での北朝鮮難民の人身売買などもとりあげて、世界にアピールすることが目的です。NGO のリーダー、スーザン・ショルテ女史が、今回も力強く仕切っていました。日本の拉致問題の解決は、日本だけが北朝鮮を責めているだけでは解決しないと思っています。人権の救済という普遍的な価値をベースに、韓国、アメリカ、ヨーロッパの国々としっかり連携していく。6カ国協議では、日本と北朝鮮だけが 2 国間で協議するのではなく、韓国やアメリカもまじえた多国間のテーブルを作るべきだと、今回も、アメリカ政府の担当者に来て訴えました。

○従軍慰安婦発言は理解されたか

安倍総理の訪米もこの時期に重なっていました。人権週間に総理の参加がなかったのは残念です。訪米前の総理の従軍慰安婦問題への発言が、波紋をよびました。米国議会が反発し、「総理の人権意識の希薄さが問題。それにもかかわらず拉致問題を声高に言うことは、2 枚舌」と LA タイムズやワシントンポストなどに書かれてしまいました。

慰安婦問題の議会決議案を米下院に提出したカリフォルニア出身のマイク・ホンダ議員に会いました。「安倍総理は訪米前に、自分の発言に対して謝罪し、政府の責任を認めた河野談話を改めて尊重することを確認しているが、それではダメなのか。あなたの言う、謝罪とは、具体的に何を求めているのか聞かせて欲しい」と言いました。「私達アメリカの日系市民は、国家による戦争中の強制収容でいわれのない差別を受け、財産も没収された。私達は、この国で、私達が

人間としての尊厳を保ち続けるために、国家による正式な謝罪と償いを求めて戦った。これに対して、大統領はもちろん、米議会が採択した法律の中で明記することで、国家の責任を認め正式に謝罪をした。私達の訴えはこれで報われたと思っている。しかし、日本の対応は違う。慰安婦問題に対する、時の官房長官談話では、他の閣僚や総理大臣が別のことを言えば、それだけのことで、国家としての意思の表明ではない。日本の国会で正式な決議や法律の中に明記することが国家の意思だ。安倍総理の過去の発言などを考えたときに、彼の記者会見でのお詫びは、本当に心からのものだ、中川さん、あなたは考えているのか？」ホンダ議員は、「自分は、日本人の血が流れているだけに、どうか、日本が国家として正しくあって欲しい。」最後にそう言って、私の手を強く握りました。

○なつかしのジョージタウン

ワシントンは、私の母校、ジョージタウン大学があります。久しぶりに、懐かしいキャンパスを訪ねました。ホワイトハウスや議事堂の建つ中心部からポトマック川に沿って上流に走れば、丘の上に広がる 1700 年代建国当時の面影を残した古いジョージタウンの町があります。大学も 1780 年開校。開拓時代のフランス風タウンハウスがレンガ敷きの歩道と銀杏並木につつまれて、昔と少しも変わることなく私たちが暖かく迎えてくれます。当時、私は、このタウンハウスに一室をかりて下宿をしていました。青春の甘い思い出がいっぱいです。

私が過した 1970 年代前半のアメリカは、ベトナム戦争の末期、ウォーターゲート事件などで、ニクソンも追い詰められていた時です。私がアメリカに感銘したのは、自らの復元力です。間違ったなと判断すれば、国民の力で内部からひっくり返して方向を変える。当時ベトナム戦争の終結は民主主義が機能したのだと思います。今、イラクで再び、アメリカの政治は、その真価を問われています。